

事業所における自己評価結果

事業所名	わくわくハウス 上尾平塚校
------	---------------

実施年月日 ： 2025年12月3日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用定員に応じたスペース確保を行い、活動内容に応じて部屋を分けるなど安全で落ち着いて過ごせる環境づくりに努めています。	活動内容や利用人数によっては空間が限られる場面もあるため、配置の工夫や活動分散を行い、より快適に過ごせる環境づくりを進めていきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用人数や子どもの特性に応じて職員配置を調整し、個別支援や安全面に配慮した体制づくりを行い、安心して活動できる環境を整えています。	利用状況や支援内容によっては職員の負担が大きくなる場面もあるため、配置の工夫や連携強化を行い、より余裕を持った支援体制を目指します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動場所や物の配置を分かりやすく整理し、視覚的な表示や導線の工夫を行うことで、子どもが安心して過ごせる構造化された環境づくりに努めています。	利用する子どもの特性や活動内容に応じて環境調整が必要な場面もあるため、表示方法や配置の見直しを行い、より分かりやすい空間づくりを進めていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃や整理整頓を徹底し、活動内容に応じて空間を分けるなど、子どもが安心して心地よく過ごせる環境づくりに努めています。	利用人数や活動内容によっては空間が手狭になる場面もあるため、配置や使い方を工夫し、より快適に過ごせる環境づくりを進めていきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子どもの特性や状況に応じて個別スペースを確保し、落ち着いて過ごせる場所やクールダウンできる環境を整えるなど、安心して活動できるよう配慮しています。	利用人数や活動内容により個別空間の確保が難しい場面もあるため、空間の使い分けや時間調整を行い、より柔軟に対応できる環境づくりを進めます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		会議や日々の振り返りを通して課題共有を行い、支援内容や業務改善について職員全体で意見を出し合いながらPDCAサイクルを進めています。	勤務時間や担当業務により参加が難しい場合もあるため、情報共有方法を工夫し、より多くの職員が改善活動に関われる体制づくりを進めます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表や面談等を通してご意見を伺い、内容を職員間で共有し、支援方法や環境改善に反映できるよう取り組んでいます。	いただいたご意見をより具体的な改善につなげられるよう、共有方法や検討の機会を増やし、継続的な業務改善に活かしていきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		会議や日々の申し送り等で職員の意見を共有し、支援方法や業務内容の見直しに活かすことで、より良い事業所運営につながるよう取り組んでいます。	勤務時間や担当業務により意見交換の機会に差が出ることもあるため、共有方法を工夫し、全職員が改善に関われる体制づくりを進めます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	自己評価や保護者評価をもとに業務改善を行い、職員間で課題共有を行うことで、より良い支援につながるよう取り組んでいます。	現在は第三者評価の実施には至っていませんが、今後の課題として検討し、より客観的な視点を取り入れた業務改善につなげていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修への参加や事業所内での研修機会を設け、支援方法や制度理解を深めることで、職員の専門性向上につながるよう取り組んでいます。	勤務状況により参加機会に差が出ることもあるため、情報共有や研修方法を工夫し、全職員が学べる体制づくりを進めていきます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援目標に基づいたプログラムを作成し、内容が分かりやすい形でお知らせすることで、安心して利用していただけるよう努めています。	より分かりやすく伝えられるよう、公表方法や説明の機会を工夫し、保護者の方に支援内容を十分理解していただけるよう改善を進めます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		面談や日々の様子をもとにアセスメントを行い、子どもと保護者のニーズを踏まえて個別支援計画を作成し、適切な支援につながるよう努めています。	より客観的な視点で計画作成ができるよう、情報共有や記録の充実を図り、支援内容の見直しを継続して行っています。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画作成時には児童発達支援管理責任者を中心に職員間で情報共有を行い、子どもの状況を踏まえて最善の支援となるよう検討しています。	勤務時間の違い等により全員での検討が難しい場合もあるため、記録共有や打合せ方法を工夫し、より共通理解を深めています。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画を職員間で共有し、日々の支援の中で内容を確認しながら、計画に沿った統一した支援が行えるよう取り組んでいます。	勤務体制により共有の機会に差が出ることもあるため、記録や申し送りを活用し、全職員が計画を理解した上で支援できる体制を強化します。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の様子の観察や記録をもとに子どもの状況を把握し、必要に応じてアセスメントを行いながら、支援内容の検討に活かしています。	標準化された評価方法の活用については更に検討の余地があるため、研修や情報共有を進め、より客観的な評価につなげていきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインを踏まえ、本人支援・家族支援・移行支援・地域連携の視点を取り入れながら、子どもの状況に応じた具体的な支援内容を計画に設定しています。	支援内容をより具体的に示せるよう記録や検討を充実させ、ガイドラインの視点を十分に反映した計画作成ができるよう取り組んでいます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動内容について職員間で意見交換を行い、子どもの状況や興味に合わせてプログラムを検討し、チームで支援が行えるよう取り組んでいます。	勤務体制により参加できる職員に差が出ることもあるため、共有方法を工夫し、より多くの職員が立案に関われる体制づくりを進めます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもの興味や成長段階に合わせて活動内容を見直し、季節行事や新しい取り組みを取り入れるなど、活動が偏らないよう工夫しています。	活動内容が重ならないよう計画を見直し、子どもの状況に応じた新しいプログラムを取り入れることで、より充実した支援を目指していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの発達状況や特性に応じて個別活動と集団活動を組み合わせる計画を作成し、それぞれの成長につながる支援が行えるよう取り組んでいます。	活動内容がより適切になるよう振り返りを行い、子どもの状況に応じた個別と集団のバランスを考えた支援をさらに充実させていきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前に打合せや申し送りを行い、その日の活動内容や役割分担を確認することで、職員間で連携しながら統一した支援が行えるよう努めています。	勤務時間の違いにより全員での打合せが難しい場合もあるため、記録や共有方法を工夫し、より確実な連携体制を整えています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に申し送りや打合せを行い、その日の様子や気付いた点を共有することで、次の支援に活かせるよう職員間で連携を図っています。	時間の都合により十分な振り返りができない場合もあるため、記録や共有方法を工夫し、継続的な改善につなげていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援内容や子どもの様子を記録し、職員間で共有することで、支援の振り返りや改善につなげられるよう取り組んでいます。	記録内容をより充実させ、支援の検証に十分活用できるよう、記入方法の統一や確認体制の強化を進めています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを実施し、子どもの成長や状況の変化を確認しながら、必要に応じて個別支援計画の見直しを行うよう努めています。	より適切な見直しが行えるよう情報共有を充実させ、子どもの変化を細かく把握しながら計画に反映できる体制を強化していきます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせで支援を行っているか。	○		ガイドラインの4つの基本活動を意識し、生活力向上や創作活動、余暇活動等を組み合わせながら、子どもの成長につながる支援を行っています。	活動内容が偏らないよう振り返りを行い、地域との関わりや生活支援の視点も取り入れながら、よりバランスの取れた支援を目指していきます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動内容や役割を子どもが選べる機会を設け、自分で決める行動できるよう支援しながら、主体性や自己決定力を育てる取り組みを行っています。	子どもの特性に応じた選択の方法をさらに工夫し、一人ひとりが無理なく自己決定できるよう支援の幅を広げていきます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当者会議や関係機関との連携の場には、子どもの状況を把握している職員が参加し、情報共有を行いながら適切な支援につなげています。	日程調整により参加者が限られる場合もあるため、事前共有や記録を活用し、関係職員全体で情報を把握できる体制を整えています。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校や相談支援事業所、医療機関等と連携し、情報共有を行いながら、子どもの状況に応じた適切な支援が行えるよう体制づくりに努めています。	連携の機会をさらに充実させるため、情報共有の方法を工夫し、関係機関とより円滑に協力できる体制を整えています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校と連絡を取り合い、行事予定や下校時刻の確認を行うとともに、送迎時の申し送り等を通して情報共有し、安心して利用できるよう努めています。	より円滑な連携が図れるよう連絡方法を工夫し、必要な情報を確実に共有できる体制づくりを進めています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて就学前に利用していた関係機関と情報共有を行い、これまでの支援内容を踏まえながら継続した支援につなげるよう努めています。	連携の機会が限られる場合もあるため、必要に応じて情報交換を行い、より円滑な移行支援につなげられる体制づくりを進めています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		必要に応じて関係機関と情報共有を行い、これまでの支援内容を引き継ぐことで、卒業後も安心して生活できるよう移行支援に努めています。	該当するケースが多くはないため、今後も必要に応じて関係機関と連携し、円滑な移行につながるよう体制を整えています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて児童発達支援センター等と連携し、助言を受けたり研修に参加したりすることで、支援の質の向上につながるよう取り組んでいます。	連携や研修の機会をさらに充実させるため、関係機関との交流を深め、より専門的な助言を支援に活かせる体制づくりを進めます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	地域との関わりを大切にし、外出活動や行事等を通して社会経験が広がるよう配慮しながら支援を行っています。	安全面や利用状況を考慮し交流の機会が限られるため、今後は無理のない形で地域との関わりを取り入れられるよう検討していきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		地域の関係機関との連携を大切にし、必要に応じて協議会等へ参加しながら情報共有を行い、支援の質の向上につながるよう努めています。	参加の機会が限られる場合もあるため、今後は情報収集を進め、地域の協議会等へより積極的に関わっていけるよう取り組みます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や連絡帳等を通して日々の様子をお伝えし、保護者と情報を共有することで、子どもの発達状況や課題について共通理解を深めています。	より丁寧な情報共有ができるよう伝え方や機会を工夫し、保護者と連携しながら支援につなげられる体制を強化していきます。
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	日々の連絡や面談を通して家庭での関わり方について助言を行い、必要に応じて情報提供を行うことで保護者支援につながるよう努めています。	家族向け研修やプログラムの実施機会は多くないため、今後は情報提供や参加できる機会を増やせるよう検討していきます。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や必要に応じて運営規程や支援内容、利用者負担等について説明を行い、安心して利用していただけるよう丁寧な対応に努めています。	より分かりやすい説明ができるよう資料や伝え方を工夫し、保護者に十分理解していただけるよう改善を進めています。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談や日々の連絡を通して子どもや保護者の意向を確認し、最善の利益を考慮しながら個別支援計画に反映できるよう努めています。	より十分に意向を反映できるよう、面談や相談の機会を充実させ、本人・保護者と共に支援を考える体制を強化していきます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画を作成した際には内容を説明し、保護者に確認していただいた上で同意を得るよう努め、安心して利用していただけるよう取り組んでいます。	より分かりやすい説明ができるよう伝え方を工夫し、保護者に十分理解していただいた上で同意が得られるよう改善していきます。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		日々の連絡や面談等を通して保護者からの相談に応じ、子育ての悩みや不安に寄り添いながら必要な助言や支援が行えるよう努めています。	相談しやすい環境づくりをさらに進めるため、面談や相談の機会を増やし、より丁寧に対応できる体制を整えています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	日頃の連絡や面談を通して保護者同士の情報交換につながるよう配慮し、安心して相談できる関係づくりを大切にしています。	保護者会等の開催は十分ではないため、今後は無理のない形で交流の機会を設けられるよう検討していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付の体制を整え、契約時等に説明を行うとともに、相談があった際には内容を共有し、迅速かつ適切に対応できるよう努めています。	より安心して相談していただけるよう周知方法を工夫し、意見や要望を早期に把握できる体制づくりを進めていきます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		お知らせや連絡帳、必要に応じた文書配布等により活動内容や予定をお伝えし、保護者に安心して利用していただけるよう情報発信に努めています。	より分かりやすく情報をお伝えできるよう発信方法を工夫し、活動の様子や予定を適切にお知らせできるよう改善していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の管理方法について職員間で確認を行い、書類や記録の取扱いに注意しながら、適切に管理できるよう努めています。	個人情報保護の意識をさらに高めるため、確認や研修を行い、より安全に管理できる体制づくりを継続していきます。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもの特性に応じて言葉や視覚的な方法を用いるなど、分かりやすい伝え方を工夫し、保護者とも丁寧に情報共有ができるよう配慮しています。	一人ひとりに合った伝達方法をさらに工夫し、安心して意思表示ができるよう支援の方法を充実させていきます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域との関わりを大切にし、外出活動や地域資源の活用を通して社会経験が広がるよう配慮しながら支援を行っています。	地域住民を招く行事等は多く実施できていないため、今後は安全面に配慮しながら地域と関われる機会を検討していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを整備し職員間で確認を行うとともに、緊急時を想定した訓練を実施し、安全に支援が行える体制づくりに努めています。	周知や訓練の機会をさらに充実させるため、定期的な確認や見直しを行い、より安全に対応できる体制を整えていきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定し、非常時に備えて避難訓練等を実施することで、災害発生時にも安全に対応できる体制づくりに努めています。	訓練内容をより実践的なものにするため、定期的な見直しを行い、緊急時に確実に対応できる体制を強化していきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用開始時や日々の連絡を通して服薬や健康状態を確認し、てんかん発作等の情報を共有することで、安全に支援が行えるよう努めています。	情報の確認漏れがないよう共有方法を工夫し、職員全体で状況を把握できる体制をさらに整えていきます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		事前にアレルギーの有無を確認し、必要に応じて医師の指示内容を共有することで、安全に配慮した対応ができるよう努めています。	情報共有をさらに徹底し、誤りのない対応ができるよう確認体制を強化し、安全管理の向上に取り組んでいきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、研修や訓練を実施しながら職員間で確認を行い、安全に配慮した環境の中で安心して支援が行えるよう努めています。	安全管理をさらに徹底するため、計画の見直しや研修の充実を図り、緊急時にも確実に対応できる体制づくりを進めていきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画の内容について必要に応じて説明を行い、保護者と情報共有しながら安全に配慮した支援が行えるよう連携に努めています。	周知の機会をさらに充実させるため、説明方法や資料の工夫を行い、保護者により確実に共有できる体制づくりを進めます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例を記録し職員間で共有することで、原因の確認や再発防止策を検討し、安全に支援が行えるよう取り組んでいます。	共有方法をさらに工夫し、全職員が確実に把握できる体制を整えることで、事故防止への意識をより高めていきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止に関する研修や確認を行い、職員間で意識を共有することで、子どもの権利を守り安心して過ごせる環境づくりに努めています。	職員全体の理解をさらに深めるため、定期的な研修や振り返りを行い、適切な支援が継続できる体制を強化していきます。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束は行わないことを基本とし、必要な場合の対応について体制を整え、事前説明や計画への記載を行うなど適切な手続きを行っています。	適正な対応が継続できるよう職員への周知を徹底し、説明や記録の方法について確認を行いながら体制の充実を図ります。